

授業科目名：IPW論（ 専門職連携実践論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：國澤尚子、善生 まり子、寫末憲子、小川孔美 朝日雅也、鈴木康美、柴田貴 美子 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、専門職である受講者が自らの業務や社会的課題をIPWの視点で分析し、その問題点を明らかにし、課題解決のためにはどのような実践を行えばよいか検討する力を養う。			
授業の概要			
本科目では、Interprofessional Work；IPW（専門職連携実践）について、基盤となる考え方や理論、これまでの発展の歴史、教育の方法、様々な分野における実際について、各回とも、講義とグループでのディスカッションにより学習する。後半は各自の実践経験についてIPWの視点で分析し発表する。			
授業計画			
第1回：＜オリエンテーション＞IPWの定義（全員）			
第2回：＜IPWの基盤となるヒューマンケア＞（朝日） 専門分野や支援・被支援の関係性を越えて提供されるヒューマンケアについて、その概念構成を考察するとともに、専門職の倫理綱領等における関連概念の位置づけと特徴を概観する。			
第3回：＜保健医療福祉分野における専門職連携教育（IPE）＞（善生） IPWが求められる背景を踏まえ、保健医療福祉分野における専門職連携教育（IPE）の状況やその課題を概観する。			
第4回：＜チームに関する理論とIPWにおける適用＞（國澤） チーム形成やチーム活動に関する諸理論を整理し、IPWを行うにあたってどのように適用すべきかについて検討する。			
第5回：＜IPWにおけるファシリテーション＞（小川） IPWにおいて必要とされるファシリテーションとは何か、実際のファシリテーションスキルについて教授する。併せて、「意思決定支援」におけるIPWとファシリテーションの役割を検討する。			
第6回：＜IPWをどのように評価するのか＞（國澤） IPWをどのように評価すればいいのか、現在の理論的到達点を明らかにし、今後の在り方を展望する。			

第7回：＜IPWを促進するF-SOAIP＞ （寫末）

IPWにおけるコミュニケーションは、言語的なものに加え、現場では記録によりなされることが多い。多職種の実践過程を可視化し、ミクロ～マクロレベルのPDCAサイクルを促進するF-SOAIPの成功例を基に、IPWの実践導入や研究活用を学ぶ。

第8回：＜「リフレクション」の理論とIPW・IPEにおける意義＞ （鈴木）

「リフレクション」の理論的背景とリフレクションの方法を理解し、IPW・IPEにおいてどのような意義があるのか検討する。

第9回：＜地域での多職種連携＞ （小川）

地域包括ケアシステム Community-based integrated care systemsでは「ケアの統合」が目指されているが統合のみならず、連携、システム等のとらえ方は様々であり、多職種及び多機関の連携には課題が多い。埼玉葛南専門職連携推進ねつとわーくにおける議論内容をもとに検討する。

第10回：＜精神障害・障害分野のIPW＞ （柴田）

精神障害者の就労・就学支援の実践事例を基に、IPWの在り方について検討する。

第11回：学生によるIPWに関する事例発表とディスカッション （全員）

第12回：学生によるIPWに関する事例発表とディスカッション （全員）

第13回：学生によるIPWに関する事例発表とディスカッション （全員）

第14回：学生によるIPWに関する事例発表とディスカッション （全員）

第15回：全体の振り返りと受講生・担当教員のコメントの共有 （全員）

テキスト

新しいIPWを学ぶ－利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携；埼玉県立大学編集，中央法規出版、2022.

参考書・参考資料等

講義の中で紹介する。

学生に対する評価

授業内容を踏まえたIPW事例の発表 60% 授業全体から学んだことについてレポート 40%

授業科目名： 保健医療福祉概論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口孝行、久保田章仁、野口祐子 担当形態：オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
第1～2回：保健医療福祉領域の現状理解と本領域の研究方法について理解する。				
第3～7回：保健医療福祉政策及び高齢者の支援システムの現状と課題を分析的に理解する。				
第8～11回：保健医療福祉領域の課題を生活環境デザイン的な視点で理解する。				
第12～15回：地域包括ケア・地域共生社会における多職種連携の必要性について理解する。				
授業の概要				
保健医療福祉課題の発見・解決に向けた取組や政策等の現状を知り、地域包括ケア・地域共生社会構想推進における重層的、包括的な支援システム構築の意義や方法について分析・検討する。人々の多様なニーズやQOLを尊重した質の高いケアに必要な保健医療福祉の総合的・包括的・継続的な活動支援方法、生活環境デザイン的な視点、多職種連携の関わり方の意義を学ぶ。				
授業計画				
第1回：保健医療福祉領域の研究方法与論文作成の基本（田口）				
第2回：保健医療福祉（主に高齢者）の現状理解（田口）				
第3回：日本における保健医療福祉政策及び高齢者の支援システムの現状と課題（久保田）				
第4回：地域実践事例の分析と課題の検討（1）（久保田）				
第5回：地域実践事例の分析と課題の検討（2）（久保田）				
第6回：リハビリテーションシステムと課題分析（1）（久保田）				
第7回：リハビリテーションシステムと課題分析（2）（久保田）				
第8回：保健医療福祉領域における生活環境デザインの位置づけ（野口）				
第9回：生活環境デザインの視点からみる地域における環境整備の現状と課題（野口）				
第10回：障害児・者の地域における暮らしを支える生活環境デザイン手法（野口）				
第11回：高齢者の地域における暮らしを支える生活環境デザイン手法（野口）				
第12回：地域ケア構想の推進（地域包括ケアシステム）（田口）				
第13回：地域包括ケアシステムにおける多職種連携（田口）				
第14回：高齢者・障害者の支援システムと課題分析（田口）				
第15回：まとめ（これまでの授業内容に関するディスカッション）（田口）				
テキスト 授業の際に配布				
参考書・参考資料等 『高齢社会白書』				
学生に対する評価 出欠状況および3名の担当教員によるレポート課題によって評価				

授業科目名： 保健医療福祉研究法 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中健一、 延原弘章、丸山優、 国分貴徳、濱口豊太、 本間三恵子  畠末憲子 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
個々の学生が修士論文を作成する上で実際に行う研究は、特定の手法によって実施される。 一方、保健医療福祉に係わる研究領域は非常に広範で、多様な手法が用いられており、関連文献の内容を適切に理解するためには、様々な研究手法に対する理解が求められる。			
授業の概要			
本授業では保健医療福祉分野で使用される研究手法について、その概要を幅広く紹介する。 なお、保健医療福祉は応用科学であり、固有の研究手法を持つものではないため、すべての研究手法を網羅して紹介するものではなく、文献理解の一助となるような一般的な手法の紹介に留まるものであり、また内容に重複する部分もある。			
授業計画			
第1回：保健医療福祉研究法序論：本授業の目的を理解するとともに、基本的な研究の流れを理解する。（担当：田中健一）			
第2回：疫学研究法1：公衆衛生学における主要な研究方法である疫学の概要について理解する。（担当：延原弘章）			
第3回：疫学研究法2：代表的な疫学研究法について解説する。（担当：延原弘章）			
第4回：医科学研究法1：基礎的な医科学研究法の概要について理解する（担当：田中健一）			
第5回：医科学研究法2：具体的な研究（実験）手法について理解する。（担当：田中健一）			
第6回：医療社会学領域の研究手法：社会学領域の中でも、ヘルス領域の調査で用いられることの多い研究デザイン・手法を理解する。（担当：本間三恵子）			
第7回：ヘルスコミュニケーション領域の研究法：ヘルスコミュニケーション領域の研究法。（担当：本間三恵子）			
第8回：臨床研究と基礎研究：一般的な医学系の研究について概観するとともに、臨床研究と基礎研究の大まかな内容について解説する。（担当：国分貴徳）			
第9回：理学療法領域における研究手法：理学療法領域における臨床研究と基礎研究についてヒトを対象とした研究から動物・細胞を用いた実験まで概説する。（担当：国分貴徳）			
第10回：実験研究法1：実験研究の基本的な流れと内容を理解する。（担当：濱口豊太）			
第11回：実験研究法2：実験研究のプロトコルについて解説する。（担当：濱口豊太）			

第12回：社会福祉研究法1：社会福祉調査と社会調査・疫学調査との重なりや違いを説明し、混合研究法、評価学について解説する。（担当：寫末憲子）

第13回：社会福祉研究法2：実際の支援情報を振り返り検証する、経験的データ分析の実際、アクションリサーチの実例を紹介する。（担当：寫末憲子）

第14回：質的研究法1：量的データと質的データの違い、質的研究法の特徴を理解する。（担当：丸山優）

第15回：質的研究法2：質的研究法の手法を理解する。（担当：丸山優）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

適宜授業の中で紹介する。

学生に対する評価

7名の授業担当者ごとに課題を出し、それらの結果を総合的に評価する。詳細はそれぞれの教員の授業の中で提示する。

授業科目名：保健医療福祉とリハビリテーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小澤昭彦 山田恵子 上原栄一郎 善生まり子 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
医学的、社会的、教育的および職業的リハビリテーションの理論と実践について把握することを通じて、保健医療福祉における包括的なリハビリテーションのあり方について考察する。			
授業の概要			
保健医療福祉におけるリハビリテーションを総合的・包括的に理解することを目的としている。具体的には、国際生活機能分類（ICF）と障害構造をふまえたうえで、精神障害リハビリテーションの歴史について理解し、精神科作業療法、対人援助職とコミュニケーション、および作業活動の実践と効果について理解する。また、膝を中心としたスポーツ外傷やロコモ・フレイル予防、高齢者の介護予防を対象とした医学的なリハビリテーションの理論と実践についても理解を深める。さらに、リハビリテーションの総合性の観点から、教育リハビリテーション、社会リハビリテーション、および職業リハビリテーションの理論と実践について把握する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(担当:全員)			
第2回：精神障害領域の理解と援助(担当:上原)			
第3回：当事者の援助や支援(担当:上原)			
第4回：国際生活機能分類（ICF）と障害構造論（担当:善生）			
第5回：精神障害領域のリハビリテーション（対人援助職とコミュニケーション）（担当:善生）			
第6回：精神障害領域のリハビリテーション（対人援助職とコミュニケーション）（担当:善生）			
第7回：スポーツ外傷（膝）（担当:山田）			
第8回：アスレチックリハビリテーション（担当:山田）			
第9回：高齢者の介護予防につながるリハビリテーション（担当:山田）			
第10回：全人間的復権をめざす総合的リハビリテーション（担当：小澤）			
第11回：教育リハビリテーション（担当：小澤）			
第12回：社会リハビリテーション（担当：小澤）			
第13回：職業リハビリテーションー支援が困難な対象を中心にー（担当：小澤）			
第14回：職業リハビリテーションージョブコーチ支援、企業における障害者雇用ー（担当：小澤）			
第15回：Zoomによる授業のまとめ(担当:全員)			
テキスト			
指定しない。			

参考書・参考資料等

各講義中に時間ごとに紹介する。

学生に対する評価

単位認定は小テスト、リアクション、レポートなどにより総合的に行います。

授業科目名：予防医科学 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹島太郎
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>予防医科学の知見を学び、予防医科学に関する情報を収集し評価できる能力を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>地域医療における「予防医科学」の現状と最新の知見を学ぶとともに、予防医学に関する英文原著論文を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：予防医科学の概論（本邦における予防医療の現状と課題）</p> <p>第2回：地域医療学（本邦における地域医療とプライマリ・ケアの現状）</p> <p>第3回：内科診療（診療のプロセス）</p> <p>第4回：EBMと臨床疫学（EBMと臨床疫学の概論）</p> <p>第5回：研究手法1（臨床疫学研究のプロセス）</p> <p>第6回：研究手法2（研究デザインと統計解析）</p> <p>第7回：研究手法3（観察研究と介入研究）</p> <p>第8回：研究手法4（診断研究と臨床予測モデル）</p> <p>第9回：研究手法5（国際分類・評価法）</p> <p>第10回：研究手法6（サンプルサイズ）</p> <p>第11回：予防1（高齢者における予防）</p> <p>第12回：予防2（生活習慣病の予防）</p> <p>第13回：予防3（がんの予防）</p> <p>第14回：予防4（感染症の予防）</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜授業の中で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>予防医学に関する英文原著論文1編を選び、自身で解説しレポートにまとめる。レポートおよび授業の参加度を総合的に評価する。</p>			



授業科目名： 応用人体構造機能論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高柳雅朗、 田中健一、山田恵子
				担当形態：オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
テーマは、人体において体内および体外の情報を得、身体を制御する神経系と運動器系の構造と機能である。到達目標は、これら神経系および運動器系そして運動器系に関連する治癒過程、疾患、ロコモティブシンドローム等の知識の獲得と理解である。				
授業の概要				
医療従事者にとって人体の構造と機能に関する高度で正確な知識、例えば、全身に分布して体内および体外の情報を得つつ身体を制御する神経系の構造と機能、あるいは、高齢者の「日常生活動作」を分析し評価する上での関節や神経の構造と機能の理解は必須である。本科目では、複雑な「人体の構造と機能」の中にも整然とした構成秩序の法則があることを理解しながら、学部教育では得られないより高度で微細な面からの総合的教育によって、臨床的医療活動に直接反映できる「人体構造機能論」を展開する。対面授業、遠隔授業、あるいは対面授業と遠隔授業の併用にて実施予定である。				
授業計画				
第1回：神経系概論。神経系の構造と機能について復習し、確認する。（担当：高柳雅朗）				
第2回：脊髄の構造と機能について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第3回：脳幹の構造と機能について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第4回：小脳と間脳の構造と機能について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第5回：終脳（大脳）の構造と機能について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第6回：中枢神経系の上行性伝導路と下行性伝導路について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第7回：脳の外部環境。髄膜、脳脊髄液、脳血管系について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第8回：脊髄神経の構造と機能について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第9回：脳神経の構造と機能について理解を深める。（担当：高柳雅朗）				
第10回：自律神経の構造と機能について理解を深める(1)。（担当：田中健一）				
第11回：自律神経の構造と機能について理解を深める(2)。（担当：田中健一）				
第12回：骨・軟骨の構造と生理・生化学、および骨代謝と関節の機能について理解を深める。（担当：山田恵子）				
第13回：皮膚や筋、その他関節組織の微細構造や治癒過程、疾患等について理解を深める。（担当：山田恵子）				
第14回：運動器を包括的に考える上で重要な概念、ロコモ等について理解を深める。（担当：山田恵子）				

子)

第15回：人体の構造を様々な角度から考え、理解を深める。（担当：山田恵子）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

「運動器系解剖学テキスト」細田多穂 監修（南江堂）

「Principles of Anatomy and Physiology」Gerard J. Tortra, et al. (Wiley)

「スネル臨床解剖学」山内昭雄訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

「臨床のための神経機能解剖学」後藤文男ほか（中外医学社）

他、随時紹介する。

学生に対する評価

出席状況、レポート等を考慮して総合的に評価します。

授業科目名： 高次脳機能と病態制御	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中健一、 金野倫子
			担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
人間の本質である「心と脳」という観点から、日々発達する脳科学情報を取り入れながら、ヒトの脳の仕組みや機能を理解し、また種々の精神神経機能障害の研究最前線に触れることが目的である。			
授業の概要			
ヒト高次脳機能がどのような神経細胞機構によって営まれているか、適切な行動のためにはどのような脳内プログラムが組まれているのかなど、細胞内神経伝達系、神経発現機構、神経分化などに関して神経生理学的な面からアプローチを行なう。さらに高次機能障害が起こった際の障害の仕組み、病態、症状、疾患について学ぶ。			
授業計画			
第1回：序論：高次脳機能と病態制御について、全体を俯瞰し、課題を整理する。 (担当：田中健一)			
第2回：基礎編Ⅰ：高次脳機能障害と病態制御に関する基本的事項を再確認し、理解を深める。 (担当：田中健一)			
第3回：基礎編Ⅱ：学習記憶等について、基本的事項を再確認し、理解を深める。 (担当：田中健一)			
第4回：基礎編Ⅲ：情動感情等について、基本的事項を再確認し、理解を深める。 (担当：田中健一)			
第5回：基礎編Ⅳ：意識注意等について、基本的事項を再確認し、理解を深める。 (担当：田中健一)			
第6回：基礎編Ⅴ：感覚等について、基本的事項を再確認し、理解を深める。（担当：田中健一）			
第7回：基礎編Ⅵ：嗜好から依存・嗜癖について、基本的事項を再確認し、理解を深める。 (担当：田中健一)			
第8回：基礎編Ⅶ：神経・精神疾患領域における課題について、病態生理学並びに臨床薬理学の視点から、理解を深める。（担当：田中健一）			
第9回：臨床編Ⅰ：様々な臨床場面で遭遇する幻覚と周辺精神現象について、その定義や特徴について整理し、理解を深める。（担当：金野倫子）			
第10回：臨床編Ⅱ：様々な臨床場面で遭遇する幻覚と周辺精神現象について、その定義や特徴について整理し、理解を深める。（担当：金野倫子）			

第11回：臨床編Ⅲ：様々な臨床場面で遭遇する幻覚と周辺の精神現象について、その定義や特徴について整理し、理解を深める。（担当：金野倫子）

第12回：臨床編Ⅳ：幻覚に関するこれまでの検討をもとに、通常の主観的体験がどのような精神医学的・神経学的基盤の上に成り立っているのかについて考察を深める。（担当：金野倫子）

第13回：臨床編Ⅴ：幻覚に関するこれまでの検討をもとに、通常の主観的体験がどのような精神医学的・神経学的基盤の上に成り立っているのかについて考察を深める。（担当：金野倫子）

第14回：臨床編Ⅵ：幻覚に関するこれまでの検討をもとに、通常の主観的体験がどのような精神医学的・神経学的基盤の上に成り立っているのかについて考察を深める。（担当：金野倫子）

第15回：臨床編Ⅶ：これまでの講義を振り返り、まとめる。（担当：金野倫子）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

「標準生理学」（医学書院）、「カンデル神経科学」（MEDSI）,

「神経研究の進歩」（医学書院）,「Clinical Neuroscience」（中外医学社） 他。

学生に対する評価

レポート、課題発表など、総合的に行なう。

授業科目名： 養護実践特論		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：上原美子、森正樹、五十嵐淳子、八十島崇、関美雪、佐藤玲子、石崎順子、田口賢太郎 担当形態：オムニバス	
科 目		養護に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等							
授業のテーマ及び到達目標							
研究課題とその研究方法を明確にするために集団及び個人における児童生徒の心身の健康課題及び個々の環境や背景を的確に捉え、現状と課題について理解を深める。							
授業の概要							
学校における教育活動及び養護実践に関連する対象、研究テーマを選定し、文献検討に基づいた具体的な研究内容および方法論に関する討議を通じて、研究課題および研究方法を明確化する。教育活動及び養護実践に関する研究的知見および研究課題を探究する。							
授業計画							
第1回：研究課題の明確化とその方法（担当：上原美子）							
第2回：教育活動（教育学）における研究の動向と実際1（担当：五十嵐淳子）							
第3回：教育活動（教育社会学）における研究の動向と実際2（担当：五十嵐淳子）							
第4回：教育活動（特別支援教育）における研究の動向と実際3（担当：森正樹）							
第5回：教育活動（身体運動学）における研究の動向と実際4（担当：八十島崇）							
第6回：教育活動（教育哲学）における研究の動向と実際5（担当：田口賢太郎）							
第7回：個人/集団の学校看護（小児看護学）における研究の動向と実際（担当：佐藤玲子）							
第8回：個人/集団の学校看護（地域支援）における研究の動向と実際2（担当：関美雪）							
第9回：個人の養護実践（保健管理）における研究の動向と実際1（担当：上原美子）							
第10回：集団の養護実践（健康教育）における研究の動向と実際2（担当：石崎順子）							
第11回：個人/集団の養護実践（学校福祉）における研究の動向と実際3（担当：上原美子）							
第12回：養護実践（保健室経営）における研究の動向と実際4（担当：上原美子）							
第13回：海外スクールナースと日本の養護教諭の独自性の探求（担当：上原美子）							
第14回：自己課題に対する文献検討（担当：上原美子）							
第15回：自己課題に対する文献検討 総括（担当：上原美子）							
定期試験							
テキスト 指定しない。							
参考書・参考資料等							
適宜紹介する。							
学生に対する評価							
学習の参加度（ディスカッション）とレポートから総合的に評価する。							

授業科目名：看護学教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋恵子、國澤尚子、高橋綾 担当形態：オムニバス、複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>&lt;授業目的&gt;</p> <p>看護専門職の育成において、教育的役割を担う看護職者に必要な知識と技能を身につける。教育学の理論を用いて、看護基礎教育・看護継続教育における系統的な教育活動を展開するための能力を修得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・看護教育制度について説明できる</li><li>・看護基礎教育と看護継続教育の現状と課題を説明できる。</li><li>・看護学教育の展開に必要な知識と方法について説明できる。</li><li>・教育学の理論を活用し、看護学教育の授業を設計できる。</li><li>・リフレクションの基礎的な理論と実践方法について説明できる。</li></ul>			
授業の概要			
<p>看護教育制度、看護専門職の育成に必要な学習理論、看護基礎教育・看護継続教育における教授—学習方法に用いる基本的知識を学ぶ。看護専門職への教育方法に必要な教育設計のプロセスについては、実際に、教育計画を立案し、発表を通して学ぶ。本科目は、授業は講義のほか、受講者によるプレゼンテーションおよび受講者間のディスカッションを通して理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（担当：高橋恵子）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業内容、目的、授業の進め方のガイダンス</li><li>・看護教育制度と看護教育の現状</li></ul> <p>第2回：教育課程の原理と構築（担当：高橋恵子）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習理論、生涯学習の基礎理論、教授と学習</li></ul> <p>第3回：成人学習者支援の理論①（担当：國澤尚子）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・専門職者の学習と支援方法</li><li>・看護専門職者の実践能力の発達</li></ul> <p>第4回：成人学習者支援の理論②（担当：高橋恵子・高橋綾）</p> <p>&lt;プレゼンテーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・看護専門職の育成に活用できる教育学の理論</li></ul>			

- ・成人学習理論と看護教育の実践

第5回：成人学習者支援の理論③（担当：鈴木康美 ゲストスピーカー）

- ・看護専門職者の成長とリフレクション

第6回：看護継続教育の現状と課題①（担当：高橋綾）

- ・看護実践能力の育成の現状と課題（さまざまな看護師の看護実践能力の育成）

第7回：看護継続教育の現状と課題②（担当：高橋恵子・高橋綾）

＜プレゼンテーション＞看護継続教育（新人・中堅・スペシャリスト）現状と課題

第8回：看護教育の展開方法（担当：高橋恵子）

- ・看護基礎教育、看護継続教育における系統的な教育活動を展開するために必要な知識と方法を学ぶ

第9回：看護教育計画の作成・評価①（担当：高橋恵子・高橋綾）

- ・＜中間プレゼンテーション①＞

教育計画立案：教育目標の設定（基礎教育・継続教育・学校教育）

第10回：看護教育計画の作成・評価②（担当：高橋恵子・高橋綾）

- ・＜中間プレゼンテーション②＞

教育計画立案：教育計画（基礎教育・継続教育・学校教育）

第11回：看護教育計画の作成・評価③（担当：高橋恵子・高橋綾）

- ・＜中間プレゼンテーション③＞

教育計画立案：教育計画（基礎教育・継続教育・学校教育）

第12回：看護教育計画の作成・評価④（担当：高橋恵子・高橋綾）

- ・＜中間プレゼンテーション④＞

教育計画立案：評価方法（基礎教育・継続教育・学校教育）

第13回：看護教育計画立案の発表①（担当：高橋恵子・高橋綾）

- ・＜最終プレゼンテーション①＞教育計画立案・評価 模擬講義

第14回：看護教育計画立案の発表②（担当：高橋恵子・高橋綾）

- ・＜最終プレゼンテーション②＞教育計画立案・評価 模擬講義

第15回：まとめ（担当：高橋恵子）

- ・まとめ：教育計画立案・模擬授業の自己評価

将来担う教育的役割を追求するための自己課題の明確化

定期試験は、実施しない

テキスト

教科書は、特に指定しない。

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学 第7版，医学書院，2021.

- ・ 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開－質の高い講義・演習・実習の実現に向けて－ 第2版，  
医学書院，2020.
- ・ 舟島なをみ編：院内教育プログラムの立案・実施・評価第2版，医学書院，2015.
- ・ 舟島なをみ監修：看護実践・教育のための測定用具ファイルー開発過程から活用の実際まで  
第3版，  
医学書院，2015.
- ・ 三輪建二『おとなの学びを育む』鳳書房、2011.
- ・ グレッグ美鈴、池西悦子編：看護学テキストNiCE 看護教育学 改訂第2版，南江堂，2021.  
別途、授業時に適宜案内する。

#### 学生に対する評価

- ・ 授業への参加度、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況（40%）
- ・ 看護教育計画の作成・評価と最終発表：（60%）で、評価する



授業科目名： 広域看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 関美雪、上原美子、石崎順子、 服部真理子、柴田亜希、伊草 綾香
			担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 地域及び社会的ヘルスニーズやライフサイクルに伴う現状と課題について理解できる。 2. 地域社会全体のQOLの向上をめざすための理論について説明できる。 3. 健康課題解決に向けた健康政策や資源開発など、地域におけるケアシステムの構築をめざすための実践方法を検討することができる。			
授業の概要			
地域看護学の分野における専門職として、個人だけでなく地域社会全体のQOLの向上をめざすための理論と実践方法についての理解を深める。地域の健康レベルのアセスメント、健康課題解決に向けた健康政策、保健医療福祉サービスやソーシャルキャピタルの活用と開発など、地域におけるケアシステムの構築をめざすための実践方法を探求する。			
授業計画			
第1回：地域における健康課題と現状1（担当：関・上原） 少子社会における健康課題			
第2回：地域における健康課題と現状2（担当：石崎・柴田） 高齢社会における健康課題			
第3回：地域の健康課題のアセスメント1（担当：服部） 地域集団を対象に展開する地域診断（コミュニティ・アセスメント）の意義と技法			
第4回：地域の健康課題のアセスメント2（担当：服部） 既存の資料を利用した地域の観察と実態調査の方法			
第5回：地域の健康課題のアセスメント3（担当：服部） 地域診断に必要なデータの活用と地域の情報の統合			
第6回：地域の健康課題のアセスメント4（担当：服部） 地域の健康課題の検討と、健康課題の優先順位の決定方法			
第7回：地域ケアシステム構築のための理論と手法1（担当：柴田） 健康課題を解決の基盤となる公衆衛生看護活動の計画・実施・評価・改善のプロセス			
第8回：地域ケアシステム構築のための理論と手法2（担当：柴田） 地域ケアシステムを形成、発展、構築するための理論と方法			

第9回：地域ケアシステム構築のための理論と手法3（担当：石崎）

地域の健康を高めるネットワーク形成とソーシャルキャピタルの醸成

第10回：地域ケアシステム構築のための理論と手法4（担当：石崎）

ヘルスリテラシーを活かした組織づくりと健康の意思決定高めるアプローチ

第11回：地域ケアシステム構築のための理論と手法5（担当：上原）

地域社会資源や関係機関の種類、地域のキーパーソンとの連携・協働の方法

第12回：地域ケアシステム構築のための理論と手法6（担当：上原）

社会資源の開発のプロセスとインフォーマルな資源との連携・協働の方法

第13回：地域ケアシステムの構築と展開例1（担当：関・伊草）

妊娠期から出産、子育てまで切れ目ない支援を目指した地域ケアシステムの構築

第14回：地域ケアシステムの構築と展開例2（担当：関）

地域の特性を生かした住民との協働による地域ケアシステムの構築

第15回：地域ケアシステムの構築と展開例3（担当：関）

人口減少社会に伴う今後の地域ケアシステムの課題と展望

定期試験は実施しない

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業の参加度（ディスカッション）（20％）、レポート（80％）

授業科目名：コンサルテーション論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森田牧子、森正樹、田村恵美、松元智恵子、丸倉直美
			担当形態：オムニバス、複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
コンサルテーションの概念と理論を理解し、体験的・実践的な学びを得る。			
授業の概要			
コンサルテーション（consultation）とは、コンサルタントとコンサルティー間の、相互の関わりを通じて展開するプロセスです。ここでは、コンサルティーが、クライエンに関する諸課題を、“自分の仕事”の中で、主体的・効果的に解決することが重視されます。本講義では、対人援助の各領域において専門的職業人に必要とされる、コンサルテーションの概念と理論に関する知識を学ぶとともに、仮想事例を基にした模擬コンサルテーションを通じて、体験的・実践的な学習を進めていきます。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（森田）			
第2回：コンサルテーションの理論的枠組み（田村）コンサルテーションの概念と理論			
第3回：コンサルテーションの理論的枠組み（田村）コンサルテーションのモデルとタイプ			
第4回：コンサルテーションの内容と展開（田村）コンサルタントの役割と資質、求められる倫理			
第5回：コンサルテーション展開のための理論（松元）コンサルテーションにおける手順の理論			
第6回：コンサルテーションの内容と展開（松元）コンサルテーションに必要な能力や姿勢			
第7回：がん看護におけるコンサルテーションの実際（丸倉）がん患者と家族へのコンサルテーション			
第8回：がん看護におけるコンサルテーションの実際（丸倉）がん患者と家族へのコンサルテーション			
第9回：慢性期看護におけるコンサルテーションの実際（松元）慢性期疾患患者と家族へのコンサルテーション			
第10回：慢性期看護におけるコンサルテーションの実際（松元）慢性期疾患患者と家族へのコンサルテーション			
第11回：学校におけるコンサルテーションの実際（森）児童期の子どもと家族に対するコンサルテーション			
第12回：学校におけるコンサルテーションの実際（森）児童期の子どもと家族に対するコンサルテーション			
第13回：ケアをする人のメンタルヘルス（森田）			
第14回：ケアをする人のメンタルヘルス（森田）			

第15回：まとめ 人・組織・地域の問題解決の促進者としてのコンサルタントの役割（森田、田村）  
定期試験 なし

テキスト

テキストは指定しない。随時、資料等を配付する。

参考書・参考資料等 特になし。随時、資料等を配付する。

学生に対する評価 授業への参加度（50点）、レポート課題（50点）により、総合的に評価する。

授業科目名：フィジカル アセスメント	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木玲子・新村 洋未・山岸直子・滑川道人・ 竹島太郎・山田恵子
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
全身状態を系統的に診査するために必要な知識を理解し、その知識を活用して臨床推論シミュレーションを学習する。			
＜到達目標＞			
1) 全身を系統的に診察する方法が説明できる。			
2) 身体機能評価に用いる診察手技および診察器具の取り扱いについて説明できる。			
3) 症例を用いた臨床推論シミュレーションで看護における診断プロセスを体験する。			
授業の概要			
前半は臨床推論の考え方や全身の系統的診察方法について学ぶ講義とし、後半の授業は事例を用いて看護における臨床推論を体験的に学ぶ。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 臨床推論とは何か（担当 鈴木）			
第2回：系統的診察とは 身体診察の基本と病歴の聴取（担当 山岸）			
第3回：全身および頭頸部の診察方法とアセスメント（担当 竹島）			
第4回：呼吸器系・循環器系の診察方法とアセスメント（担当 竹島）			
第5回：消化器系の診察方法とアセスメント（担当 竹島）			
第6回：筋肉・骨格系の診察方法とアセスメント（担当 山田）			
第7回：脳・脊髄神経系のアセスメント（担当 滑川）			
第8回：発達段階に対応した診察方法とアセスメント（担当 鈴木）			
第9回：臨床推論シミュレーション演習①（担当 鈴木・山岸・新村）			
第10回：臨床推論シミュレーション演習①（担当 鈴木・山岸・新村）			
第11回：臨床推論シミュレーション演習②（担当 鈴木・山岸・新村）			
第12回：臨床推論シミュレーション演習②（担当 鈴木・山岸・新村）			
第13回：臨床推論シミュレーション演習③（担当 鈴木・山岸・新村）			
第14回：臨床推論シミュレーション演習③（担当 鈴木・山岸・新村）			
第15回：まとめ（担当 鈴木）			
テキスト			
ベイツ診察法 第3版. 有岡宏子・井部俊子・山内豊明監訳（2022）. メディカルサイエン			

スインターナショナル
参考書・参考資料等 適宜、授業内にて指示するfu
学生に対する評価 授業への取組み（履修後の確認小テスト） 40% 事例に対する臨床推論のレポート 40% 授業への参加度 20%

授業科目名： 臨床薬理学		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：田中健一、 辻玲子、江口のぞみ、 田村佳士枝、佐野元彦	
		担当形態：オムニバス・複数					
科 目		養護に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等							
授業のテーマ及び到達目標							
薬物治療の基礎や薬物治療の科学的根拠、医薬品の適正使用に必要な臨床薬理学の基礎的知識を修得する。これにより、複雑な健康課題をもつ対象の回復促進に向けて、薬剤の選択と管理、緊急救急処置、症状や生活の調整、モニタリング、患者の服薬管理を能力向上に関する知識とそれらを基にした看護技術について学ぶ。							
授業の概要							
身近な存在である医薬品が生体内で作用を発揮するメカニズムについて理解するために必要な医薬品に関する基本的知識と最新の知見を学ぶ。また、目の前の患者に対して多くの医薬品の中から最も適切な医薬品を選択し、最善の治療を行うための基本的知識と最新の知見を学ぶ。以上により、実臨床において、実践的な薬物治療に関する理解を深める。							
授業計画							
第1回：臨床薬理学総論：オリエンテーション、医薬品の基礎知識、薬機法等関係法規の理解。 (担当：田中健一)							
第2回：医薬品の適正使用Ⅰ：薬効解析（薬理作用及び副作用の作用機序）、投薬経路による薬効発現の変化。（担当：田中健一）							
第3回：医薬品の適正使用Ⅱ：薬物動態（薬物の吸収と代謝・分布・排泄、PK/PD理論）、薬物相互作用、医薬品安全管理。（担当：田中健一）							
第4回：慢性期における治療薬と管理：循環器系、内分泌・代謝系、呼吸器系、消化器系等に関連する疾患の治療薬とその管理・留意点。（担当：田中健一）							
第5回：緊急応急処置に用いられる治療薬と管理：救命・応急措置のために使用される薬剤（抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬、ステロイド薬、輸液製剤、血液製剤等）とその管理・留意点。（担当：田中健一）							
第6回：感染症に対して用いられる薬剤と管理：感染症に対して用いられる薬剤（抗菌薬、抗ウイルス薬、予防接種等）の種類と選択、体内動態・薬効とその管理・留意点。（担当：田中健一）							
第7回：中枢神経系の治療薬と管理：精神疾患・神経変性疾患等の治療薬（抗うつ薬、睡眠薬、抗精神病薬、パーキンソン病治療薬等）とその管理・留意点（担当：田中健一）							
第8回：高齢者・在宅治療における治療薬と管理：加齢による生体機能や薬物感受性の変化、							

高齢者に対する薬物治療上の留意点、在宅治療時の薬剤投与とその管理・留意点。

(担当：田中健一)

第9回：小児における治療薬と管理：小児に対する薬物療法の特徴（用量決定や特有の副作用・投与禁忌・注意薬剤・薬物体内動態や薬剤感受性の年齢に伴う変化）とその管理・留意点。（担当：田中健一）

第10回：妊娠・授乳婦における治療薬と管理：妊娠時・授乳時における薬物療法の留意点、服薬指導カウンセリング。（担当：田中健一）

第11回：臨床実践現場における薬剤師と看護師の協働Ⅰ：入院治療中の主に抗腫瘍薬を用いる患者への薬剤調整、モニタリング、看護職との協働について、理解を深める。（担当：佐野元彦）

第12回：臨床実践現場における薬剤師と看護師の協働Ⅱ：疼痛緩和が必要な患者の薬剤調整、モニタリング、在宅に向けた生活調整における看護職との協働について、理解を深める。（担当：佐野元彦）

第13回：臨床薬理学の臨床看護実践への活用Ⅰ：臨床薬理学の臨床看護実践への活用について、理解を深める。（担当：辻玲子、江口のぞみ、田村佳士枝）

第14回：臨床薬理学の臨床看護実践への活用Ⅱ：第13回授業に基づき、服薬管理困難な対象（慢性期にある高齢者）の事例適用について各自でまとめたものを発表し、討論する。（担当：辻玲子、江口のぞみ、田村佳士枝）

第15回：臨床薬理学の臨床看護実践への活用Ⅲ：これまでの講義を振り返り、患者の服薬管理能力向上のための専門看護師の役割についてまとめる。（担当：辻玲子、江口のぞみ、田村佳士枝）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

総合的に行なう。



授業科目名： 地域ケア支援論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：善生まり子・関 美雪・服部真理子・辻玲子・ 櫻井育穂
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目(養護に関する科目)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 地域看護学およびプライマリヘルスケアの基本的な理論について教授するとともに、各種アプローチの方法を、対象の特性（母子、精神、成人、高齢者）、支援の場（在宅、地域包括支援センター）に応じて教授する。これらをもとに、事例や既存の研究を分析し、地域ケアにおける看護職の活動について学習を深める。			
授業の概要 地域で暮らすさまざまな人々が、住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるための個別支援や地域コミュニティづくりを、看護学の立場から地域ケア支援論として教授する。			
授業計画 第1・2回：地域看護における各種理論やモデルについて教授し、地域ケアにおける看護職の機能と役割について考える。（担当：善生まり子） 第3・4回：新生児訪問、乳幼児健診等の子育て支援の実際を学び、地域におけるポピュレーションアプローチとしての母子保健システムについて理解を深める。家族看護の各種理論と対象に応じた家族支援について教授する。加えて、さまざまな対象者や支援の場による家族看護についての理解を深める。（担当：関美雪） 第5・6回：子ども虐待や産後うつ病、MCG等の困難事例の支援の実際を学び、地域におけるハイリスクアプローチとしての母子保健システムについて理解を深める。（担当：関美雪） 第7・8回：成人期の健康課題である生活習慣病に対する取り組みの実際を学び、地域における成人保健活動と看護職の役割について理解を深める。（担当：服部真理子） 第9・10回：地域における子どもの発達・生活・健康、家族、地域の在宅生活を支援する社会資源の状況を教授する。特に重症心身障害や慢性病をもち医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護について教授する。（担当：櫻井育穂） 第11・12回：医療ニーズの高い中重度の要介護高齢者の在宅での療養生活の実態を通して、入院加療が必要になった場合の自宅への退院調整および、退院支援における看護職者の役割について教授する。在宅療養生活を支える上での利用者本位、自立支援、公正中立、権利擁護、守秘義務、利用者のニーズの代弁などを理解し、多職種連携及び協働、地域包括ケアシステムについて理解を深める。（担当：善生まり子） 第13・14回：認知症高齢者の看護へのアセスメントや援助方法および高齢者家族への援助方法（倫理的課題、他部署・職種との連携・調整など）について教授する。（担当：辻玲子） 第15回：各自の関心領域における埼玉県の地域ケアの実態と課題についてレポート報告を行い、そ			

れらに関連づけて埼玉県の地域コミュニティづくりに看護職がどのように貢献できるかをディスカッションする。（担当：善生まり子）

定期試験 授業参加態度、討議への参加度、レポート内容等による総合的評価を行う。

テキスト

別途、指示する。

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業科目名： 小児健康生活論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 櫻井育穂、辻本健 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 子どもの成長発達を理解するための主要な理論を学ぶとともに、家族を理解するための理論を学び、小児看護における看護実践への活用が考えられる。			
授業の概要 対象となる子どもとその家族を理解するため、成長発達、家族関係等の諸理論と、環境との相互作用の中で子どもとその家族の健康な生活について学ぶ。			
授業計画 第1回：子どもの健康現象と看護および成長発達の基礎と看護（担当：櫻井・辻本） 第2回：子どもの成長発達（担当：櫻井・辻本） 第3回：子どもの成長発達（担当：櫻井・辻本） 第4回：発達理論（1）ボウルビー、マラー（担当：櫻井・辻本） 第5回：発達理論（2）エリクソン（担当：櫻井・辻本） 第6回：発達理論（3）ピアジェ（担当：櫻井・辻本） 第7回：子どもの成長発達に関する諸外国との比較（担当：櫻井・辻本） 第8回：子どもの成長発達に関する諸外国との比較（担当：櫻井・辻本） 第9回：家族の発達（担当：櫻井） 第10回：家族の発達（担当：櫻井） 第11回：家族の理論（1）家族システム理論（担当：櫻井） 第12回：家族の理論（1）家族システム理論（担当：櫻井） 第13回：家族の理論（2）家族ストレス対処理論（担当：櫻井） 第14回：家族の理論（2）家族ストレス対処理論（担当：櫻井） 第15回：まとめ（担当：櫻井・辻本） 定期試験は実施しない			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 ・R.M.トーマス著、小川捷之他訳：ラーニングガイド児童発達の理論、新曜社、1988。 ・アン・マリーナ・トメイ、マーサ・レイラ・アリグッド著、都留伸子監訳：看護理論家とその業績 第3版、医学書院、2004。			

- ・ ジョージパターワース著、村井潤一監訳：発達心理学の基本を学ぶ・人間発達の生物学的・文化的基礎、ミネルヴァ書房、1998.
- ・ 野島佐由美監：家族エンパワーメントをもたらす看護実践、へるす出版、2005.
- ・ 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第4版、日本看護協会出版会、2012.
- ・ 小林奈美：実践力を高める 家族アセスメント Part I カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方、医歯薬出版株式会社、2009.
- ・ 小林奈美：実践力を高める 家族アセスメント Part II カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ FASC 式家族事例検討の展開から研究へ ファシリテートのエキスパートをめざして、医歯薬出版株式会社、2011.
- ・ グループワークで学ぶ 家族看護論 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ 第2版、医歯薬出版株式会社、2011.

学生に対する評価

プレゼンテーション (50%) 、討議内容 (50%)

授業科目名： 小児看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横山由美、田村佳士枝、辻本健 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
子どもと家族を主体として子どもと家族の力を引き出す看護についてオレムセルフケア不足理論および子どもを理解するための主要な理論を学び、小児看護における看護実践への活用が考えられる。			
授業の概要			
子どもと家族を主体として子どもと家族の力を引き出す看護について、オレムセルフケア不足看護理論を用いて学ぶ。また、小児看護学の対象理論として、子どもの病気認知やボディイメージ、子どもの権利とプレパレーション、子どものストレスと身体反応、防衛機制とストレス・コーピングについて学ぶ。			
授業計画			
第1回：オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用、概念の検討（担当：横山、田村）			
第2回：オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用、概念の検討（担当：横山、田村）			
第3回：オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用、理論に基づく看護過程（担当：横山、田村）			
第4回：オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用、理論に基づく看護過程（担当：横山、田村）			
第5回：オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用、実践への適用（担当：横山、田村）			
第6回：オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用、実践への適用（担当：横山、田村）			
第7回：子どもの病気認知（担当：横山）			
第8回：子どもの病気認知（担当：横山）			
第9回：子どもの病気認知とボディイメージ（担当：横山）			
第10回：子どもの病気認知とボディイメージ（担当：横山）			
第11回：子どもの権利とプレパレーション（担当：横山、辻本）			
第12回：子どもの権利とプレパレーション（担当：横山、辻本）			
第13回：子どものストレス・コーピング（担当：横山）			
第14回：子どものストレス・コーピング（担当：横山）			
第15回：まとめ（担当：横山、田村、辻本）			
定期試験は実施しない			
テキスト			
指定しない			

参考書・参考資料等

- ・ 片田範子編：子どもセルフケア看護理論、医学書院、2019.
- ・ コニーデニス著、小野寺登記訳：オレム看護論入門セルフケア不足看護理論へのアプローチ、医学書院、1999.
- ・ 小島操子：看護における危機理論・危機介入 改訂4版 フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ、金芳堂、2018.
- ・ リチャード・S ラザルス、スーザン・フォルクマン著、本明寛、春木豊、織田正美監訳：ストレスの倫理学 認知的評価と対処の研究、実務教育出版、2004.

学生に対する評価

プレゼンテーション（50%）、討議内容（50%）

授業科目名： リプロダクティブヘル ス論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 兼宗美幸、浅井宏美、齋藤恵 子、森美紀、山本英子、 坂上明子 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：周産期の母子と家族の健康とリプロダクティブヘルス 到達目標：リプロダクティブヘルス/ライツおよびヘルスプロモーションの視点から周産期にある女性と家族における健康増進に関連する課題および、各ライフステージにおける性と生殖の健康増進に関連する課題について理解する。			
授業の概要 周産期の母子と家族に対する様々な環境の影響を理解し、対象者が有する健康課題や適応状態の診断への研究的な取り組みについて学ぶ。また、各ライフステージにおける性と生殖に関するヘルスニーズを理解し、自己決定とセルフケアの向上を目指した健康課題への研究的な取り組みについて学ぶ。			
授業計画 第1回       ：リプロダクティブ・セクシュアルヘルス/ライツの概念（担当：兼宗美幸） 文献・法制度等を通して、リプロダクティブ・セクシュアルヘルス/ライツの概念や生涯を通じた性と生殖に関連するヘルスニーズについて理解を深める。 第2回       ：ヘルスプロモーションの理論（担当：兼宗美幸） ヘルスプロモーション促進のための様々な理論について、周産期にある母子と生涯を通じた性と生殖に関連する健康に関する文献を通して理解を深める。 第3・4回：周産期のファミリーセンタードケア（担当：浅井宏美） 文献等を通して、ファミリーセンタードケアに関して理解を深める。 第5・6回：ハイリスクな母子と家族に対するケア（担当：森 美紀） 文献等を通して、ハイリスクな母子と家族のケアに関して理解を深める。 第7・8回：文化的多様性を包含したリプロダクティブヘルス（担当：齋藤恵子） 文献等を通して、多様な背景を持つ女性へのリプロダクティブヘルスケアに関して理解を深める。 第9・10回：性暴力と被害者支援（担当：兼宗美幸） 文献・法制度等を通して、日本における性暴力の現状とその対策等や求められる被害者支援について理解を深める。			

第11・12回：周産期の身体活動（担当：山本英子）

周産期の身体活動に関する研究に関する文献を通して理解を深める。

第13回：不妊症と生殖補助医療（担当：坂上明子）

文献等を通して、現在の日本における不妊カップル、不妊治療および援助等の理解を深める。また、不妊治療によって妊娠したカップルへの援助について理解を深める。

第14・15回：総括（担当：兼宗美幸・浅井宏美・齋藤恵子・森 美紀・山本英子）

周産期の母子および性と生殖の健康に対する各自の問題意識を基に、現状分析、支援策等の学びを報告し、討議する。

定期試験：行わない

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

学術論文を活用する

学生に対する評価

レポート提出および毎回の参加状況



授業科目名： ヘルスプロモーション論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石崎順子、関美雪、上原美子、 服部真理子、柴田亜希、 伊草綾香
			担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. ヘルスプロモーションの理念および関連理論・モデルについて理解できる。			
2. セッティングズ・アプローチの視点に基づき、各活動の場におけるヘルスプロモーション活動の特徴を説明できる。			
3. ヘルスプロモーションの理念を基盤とした地域看護実践のあり方について研究的な視点から検討することができる。			
4. 人々の健康を支援する地域看護活動の実践方法を創造的に検討できる。			
授業の概要			
健康政策における重要な概念であるヘルスプロモーションについて、関連理論およびその実践方法や評価についての理解を深める。セッティングズ・アプローチの視点から、個人・家族・集団を対象とした多様な生活の場における実践活動を紹介し、健康課題解決のための方策およびヘルスプロモーションの支援者として地域看護活動を展開するための実践方法を探求する。			
授業計画			
第1回：健康課題と地域看護学分野の実践及び政策（担当：石崎・関）			
第2回：ヘルスプロモーションの概念と活動戦略1（担当：石崎） ヘルスプロモーションおよび健康の概念、ヘルスプロモーションのプロセス戦略、活動方法について			
第3回：ヘルスプロモーションの概念と活動戦略2（担当：石崎） 健康行動と健康の社会的決定要因へのアプローチ、ヘルスプロモーションのアウトカムモデルについて			
第4回：ヘルスプロモーション戦略を支える健康行動理論・モデル1（担当：服部） 個人、個人間レベルの健康行動理論・モデル、理論・モデルを活用したヘルスプロモーション戦略について			
第5回：ヘルスプロモーション戦略を支える健康行動理論・モデル2（担当：服部） 集団レベルの健康行動理論・モデル、理論・モデルを活用したヘルスプロモーション戦略について			

第6回：子どもの健康とヘルスプロモーション1（担当：上原・伊草）

子どもの心身の健康や健康的な生活を支える予防的健康教育について

第7回：子どもの健康とヘルスプロモーション2（担当：上原）

健康を規定する家族や学校の集団・環境に着目したヘルスプロモーション活動について

第8回：子どもの健康とヘルスプロモーション3（担当：上原）

学校と地域とのパートナーシップ、国内外の健康に関する教育政策について

第9回：地域・コミュニティにおけるヘルスプロモーション1（担当：石崎）

健康を規定する職場の集団・環境に着目したヘルスプロモーション活動について

第10回：地域・コミュニティにおけるヘルスプロモーション2（担当：石崎）

組織的な健康づくり活動、職域・地域との協働による健康支援の特徴について

第11回：地域・コミュニティにおけるヘルスプロモーション3（担当：柴田）

国保データ等の健康情報を活用した保健活動の展開について

第12回：地域・コミュニティにおけるヘルスプロモーション4（担当：柴田）

地域組織活動を促す看護職の役割と健康寿命の延伸につながる地域看護活動の特徴

第13回：地域・コミュニティにおけるヘルスプロモーション5（担当：柴田）

持続可能な社会の実現に向けた健康施策について

第14回：地域包括ケアシステムの実現とヘルスプロモーション1（担当：関）

全世代型地域包括ケアシステムを推進するための方策について

第15回：地域包括ケアシステムの実現とヘルスプロモーション2（担当：関）

健康なまちづくりに寄与する地域看護学分野専門職の地域連携における役割について

定期試験は実施しない。

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業の参加度（ディスカッション）（20％）、レポート（80％）

授業科目名： 健康福祉社会調査論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：若林チヒロ、白 岩祐子
				担当形態：オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
保健医療福祉領域における社会調査の方法を学び論文作成に活かす。				
授業の概要				
社会調査の手法を用いて、集団の健康状態を総合的に把握する手法を学ぶ。 対象集団の特性を掌握するため、行政資料などから保健福祉政策の内容分析や、客観的データで把握した特徴を検討する方法を学ぶ。				
授業計画				
1 社会調査の基本事項1 社会調査の種類、方法など（担当：若林）				
2 社会調査の基本事項2 社会調査の種類、方法など（担当：若林）				
3 調査設計、調査計画1 調査設計について、調査計画全体のプロセス、倫理審査等（担当：若林）				
4 調査設計、調査計画2 調査設計について、調査計画全体のプロセス、倫理審査等（担当：若林）				
5 対象と方法 1 対象や方法、サンプリング、偏りなど（担当：白岩）				
6 対象と方法 2 対象や方法、サンプリング、偏りなど（担当：白岩）				
7 調査票の作成 1 調査票作成の方法、作成で留意すること（担当：白岩）				
8 調査票の作成 2 調査票作成の方法、作成で留意すること（担当：白岩）				
9 実査と集計 1 配布、回収、集計、データクリーニング等（担当：白岩）				
10 実査と集計 2 配布、回収、集計、データクリーニング等（担当：白岩）				
11 結果の還元 1 報告書の作成、図表作成のポイント（担当：若林）				
12 結果の還元 2 報告書の作成、図表作成のポイント（担当：若林）				
13 公的統計 1 テーマに関連する公的統計や類似の調査等（担当：若林）				
14 公的統計 2 テーマに関連する公的統計や類似の調査等（担当：若林）				
15 まとめ 全体のふりかえり等（担当：若林、白岩）				
定期試験 試験または課題にて対応				
テキスト				
指定しない				
参考書・参考資料等				
必要に応じて講義内で紹介する				
学生に対する評価				
課題への対応や発表などから総合的に評価する				

授業科目名：統計分析法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：延原弘章 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 保健医療福祉分野で利用される統計手法の理論と実際の利用方法について学び、基本的な多変量解析を含む統計分析ができるようになることを目指す。			
授業の概要 保健医療福祉の分野では、科学的根拠をもった治療や処遇が求められている。これらの要求に応えるためには、統計学に依拠した科学的な実証研究が必要となる。本講義では、疫学および社会調査での利用を意識しつつ、統計学的な考え方を身につけ、必要な統計手法を学ぶ。			
授業計画 第1回：記述統計(1) 度数分布表・ヒストグラム・基本統計量など1変数の分析 第2回：記述統計(2) 相関係数・クロス集計・ファイ係数・回帰分析など2変数間の関連分析 第3回：確率分布 正規分布・二項分布など推測統計に必要な確率分布 第4回：統計学的推定 平均値や比率の推定 第5回：統計学的検定(1) 母平均値の検定、2群の母平均値の差の検定など 第6回：統計学的検定(2) 母比率の検定、独立性の検定など 第7回：多変量解析(1) 重回帰分析・ロジスティック回帰分析など 第8回：多変量解析(2) 分散分析など 第9回：多変量解析(3) 因子分析など 第10回：パソコンを利用した統計分析(1) データのクリーニングを含む分析前のデータ処理 第11回：パソコンを利用した統計分析(1) 記述的な統計分析 第12回：パソコンを利用した統計分析(1) 推定と検定 第13回：パソコンを利用した統計分析(1) 基本的な多変量解析 第14回：行政統計の利用(1) 政府統計の総合窓口(e-Stat)を使って必要なデータを探す 第15回：行政統計の利用(2) 政府統計の総合窓口(e-Stat)の分析機能を利用する 定期試験は実施しない			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する			
学生に対する評価 毎回の授業ごとの宿題（50％）と期末の演習課題（50％）			

授業科目名：健康支援カ ウンセリング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大塚 齊 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
目標は、教育、保健、医療、福祉現場等で実践的なカウンセリングができ、さらに臨床現場ス タッフのスーパーバイズが出来るようになることである。			
授業の概要			
基本的な理論やモノの見方から実践的に関わる技術まで、受講者の経験に即して学んでいく。 最終的には受講者が接する利用者やその家族、その関係者に役立てることが出来るよう、具体 的な事例検討と実践的演習を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 講義のねらいと、考え方を整理する			
第2回：理論的基盤 人や臨床現場を理解する諸理論を紹介する（システム論等）			
第3回：理論的基盤 人や臨床現場を理解する諸理論を紹介する（ジェノグラム等）			
第4回：理論的基盤 人や臨床現場を理解する諸理論を紹介する（発達と家族ライフサイクル論等）			
第5回：対人援助技術 応答技法 質問の仕方等 対人援助スキルの基本を揃える			
第6回：対人援助技術の実際 事例検討等を用いて、実際の対人援助技術を学ぶ			
第7回：対人援助技術の実際 事例検討等を用いて、実際の対人援助技術を学ぶ			
第8回：対人援助技術の実際 事例検討等を用いて、実際の対人援助技術を学ぶ			
第9回：対人援助技術の実際 事例検討等を用いて、実際の対人援助技術を学ぶ			
第10回：対人援助技術の実際 事例検討等を用いて、実際の対人援助技術を学ぶ			
第11回：各臨床現場での健康支援カウンセリング：学校			
第12回：各臨床現場での健康支援カウンセリング：医療機関			
第13回：各臨床現場での健康支援カウンセリング：児童福祉領域			
第14回：各臨床現場での健康支援カウンセリング：司法領域			
第15回：まとめ 学びの定着のために、新たな気づきとなった視点を共有し、振り返る			
テキスト：指定しない			
参考書・参考資料等			
平木典子著「新・カウンセリングの話」朝日新聞出版			
野末武義著「夫婦・カップルのためのアサーション」金子書房			
学生に対する評価 議論への積極的な参加度、コメントの視点や表現方法等で総合的に評価する			

授業科目名： 健康運動実践学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：八十島 崇 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・ 健康運動の実践にかかる理論的背景を理解する。			
・ 各々の現場において健康運動の実践活動や指導方法を活用できる素地を向上させる。			
授業の概要			
この授業では、健康運動の実践にかかる理論的背景について、健康体力、傷害予防、測定評価、健康管理といったキーワードからの理解を深めていく。また、健康運動の実践活動や指導方法についても様々な事例をもとにしたディスカッションを展開し、履修者自身が各々の現場において活用できることを目的とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（各々の現場における健康運動実践にかかる課題）			
第2回：体力の構造と捉え方			
第3回：健康を維持・増進するための体力①（身体組成、筋力・筋持久力編）			
第4回：健康を維持・増進するための体力②（全身持久力編）			
第5回：健康を維持・増進するための体力③（柔軟性編）			
第6回：体力測定の意義と目的			
第7回：体力測定で得られたデータの評価と活用			
第8回：健康運動実践プログラム（運動プログラムデザイン）の考え方			
第9回：健康運動実践プログラム（運動プログラムデザイン）作成演習			
第10回：健康運動実践の多様な捉え方（すること、みること、ささえること）			
第11回：健康運動実践と傷害の予防および評価			
第12回：健康運動実践にかかる応急処置			
第13回：暑熱環境と健康運動実践			
第14回：健康管理と健康運動実践			
第15回：まとめ（学修内容をもとにしたこれからの健康運動実践）			
テキスト			
特に指定はしない（授業前に随時関連書籍等を紹介）			
参考書・参考資料等			
・ G. G. Haff, N. T. Triplett（編），篠田邦彦（総監修）（2018）ストレングス&トレーニングコンディショニング．ブックハウスHD.			
・ NPO法人日本トレーニング指導者協会（編著）（2023）トレーニング指導者テキスト理論編3			

訂版. 大修館書店.

- ・ NPO法人日本トレーニング指導者協会（編著）（2023）トレーニング指導者テキスト実践編3  
訂版. 大修館書店.

学生に対する評価

課題レポート50%、授業内での発表50%として総合的に評価

授業科目名： ソーシャルワーク特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：保科寧子、高島 恭子、相良翔
			担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
ソーシャルワークにおける実践研究の概念と展開を知り、支援の現場で起きている課題を分析し解決するための方法を理解する。			
授業の概要			
この授業では、ソーシャルワークにおける実践研究の概念と展開を知り、実際に社会福祉・ソーシャルワークの現場に生じている課題をさまざまな研究手法を通じて分析し解決するための方法を学びます。あわせて、研究論文のレビューを通じてソーシャルワークに関する国内外の研究動向を理解し、日本および世界における保健医療福祉的な課題についても議論し理解を深めます。演習形式を取り入れ、学生には順次発表と、双方向授業となるような積極的発言を期待します。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（保科 相良 高島）			
第2回：実践研究の考え方と実践現場での課題への気づきと研究的問い立て：演習（保科）			
第3回：ソーシャルワークにおける実践研究としての現場実践での取り組み評価の手法（保科）			
第4回：文献レビューを通じた実践研究の理解（高島）			
第5回：文献レビューを通じた実践研究の理解（高島）			
第6回：文献レビューを通じた実践研究の理解（相良）			
第7回：文献レビューを通じた実践研究の理解（相良）			
第8回：実践研究の具体的な実施方法（保科）			
第9回：実践研究課題の検討と発表：演習（保科）			
第10回：文献レビューを通じた実践研究の理解（高島）			
第11回：文献レビューを通じた実践研究の理解（高島）			
第12回：文献レビューを通じた実践研究の理解（相良）			
第13回：文献レビューを通じた実践研究の理解（相良）			
第14回：文献レビューを実施し実践研究への理解を確認：演習（保科）			
第15回：ソーシャルワークにおける実践研究についての学びのまとめと振り返り（保科）			
定期試験 講義内課題をもって定期テストに代えることとします。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 適宜			



学生に対する評価

第2回、第9回、第14回に発表・提出する課題をもって評価します。

授業科目名： 子ども若者支援論		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：林恵津子、大塚 斉、岡桃子、相良翔、田口賢 太郎、田中愛誠、五味葉子	
		担当形態：オムニバス、複数					
科 目		養護に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等							
授業のテーマ及び到達目標							
子ども若者を取り巻く生活上の困難さについて、マクロレベルの社会環境から集団・個人と いうミクロレベルまでを連続して理解し、働きかけることができる知識を得る。							
授業の概要							
① 子どもの貧困対策、健全育成、保育・教育現場での支援、社会的養護、特別支援 ②若者の 社会的排除対策(引きこもり支援、就労支援、非行・犯罪防止、児童養護施設出所者への支 援等) ③その他、家族に関する内容、家族主義の変化、家族形態の変容、子育て家庭・一 人親世帯に対する支援							
授業計画							
第1回：オリエンテーション		本科目の構成と進め方、使用する文献の紹介（担当：全員）					
第2回：背景と施策（1）		子どもの貧困ひとり親家庭への支援政策（担当：田中）					
第3回：背景と施策（2）		保育所を中心とした子育て支援（担当：田中）					
第4回：子どもの生活（1）		子どもの生活に即した保育・教育の展開（担当：田口）					
第5回：子どもの生活（2）		子どもの健康的な生活習慣（担当：五味）					
第6回：子どもの生活（3）		子どもの健康に関するQ&Aに基づく保護者支援（担当：五味）					
第7回：道徳的育ちと教育		一貫した教育のプロセスから見る子どもの道徳的な育ち（担当：田口）					
第8回：社会的養護		子どもたちを取り巻く養護環境（担当：大塚・岡）					
第9回：子ども支援の実際		児童虐待として通報されるケースへの対応と実際（担当：大塚）					
第10回：虐待・不適切養護		子ども若者の居場所、再発防止支援の実際（担当：岡・大塚）					
第11回：障害に配慮する（1）		障害のある子への支援（担当：林）					
第12回：障害に配慮する（2）		障害のある子の、親・家庭への支援（担当：林）					
第13回：少年犯罪と依存		養育環境から影響を受けた青少年少女たちの理解（担当：相良）					
第14回：若者支援の実際		対人関係に困難さを感じている人への支援（担当：相良）					
第15回：総括		子ども若者支援の課題と展望（担当：全員）					
定期試験							
テキスト							
特に指定しない							
参考書・参考資料等							

随時、教員が紹介する
学生に対する評価 授業中の口頭試問、レポート